



代表取締役社長 八木 信二郎氏

八木熊に聞けば答えがある！〆を實踐する。

先達を尊敬、感謝しつつ、
時代を見据えた新しい道へ。

老舗企業は、ビジネスモデルはもとより古い体質と考え方が残っているイメージがある。「八木熊」もそう思われているかもしれない。繊維王国・福井で、絹糸用糊材の〆のりの製造販売

業を興して今年で116年。取扱はいまだに繊維や〆のりだけと考える人は少なくないだろう。しかし実態は全く異なることを、取材で実感した。

「先達は時代の変化と共に糊材卸に転身、さらには非繊維分門への参入を果たし、多岐分野に精通する化学品専門商社へと発展させました。そして平成

3年からは第2創成期として、製造部門（樹脂成形）を併設した。商社×メーカーの融合体企業として進化し、現在に至っています。確かに歴史は長いですが、社内は常に新しいことに挑戦し続けているので、私たちはむしろ、新しい会社だと自負しています」

の融合体企業としていくつもビジネスモデルを構築し成長を続けるが、決して甘んじてはいない。現在のキーワードは、成功より、成長！だとも。

「お客様にとってオンリー1&ナンバー1の存在でありたい。そのためには、常に全社員の挑戦する姿勢が不可欠です。挑戦を繰り返し、その完成度を高めて

“成功よりも、成長！” 創造と進化を続ける老舗。

株式会社 八木熊

“商社×メーカーの融合体企業”として躍進する背景には、先達への感謝と地元への恩返し、そして未来への夢がある。



常務取締役 E/S本部長
酒井 甫さん

職場環境の良さと 離職率の低さが自慢。

E/S本部の役割はやりがいの向上、つまり職場環境の整備です。あらゆる部署に問題を見つければ解決へ誘導し、時には経営陣に進言することも。その結果のひとつが「離職率の低さ」です。成長を続ける社員は弊社の自慢であり、それを見守るのは私の楽しみです。

常務取締役 C/S本部長
吉川 昇さん

難問への挑戦や人との 出会いが良い刺激に。

繊維、建材、樹脂成形の全事業統括を担当し、難しいテーマにも積極果敢に挑戦しています。現在は市場拡大=量的な軸を海外展開に、質的な軸をブランド育成においた業務に傾注しており、国内外を問わず素晴らしい方々との出会いが仕事の面白みにもなっています。



取締役 Q/S本部長、
品質保証本部長、生産管理部長
長谷川 光宏さん

変種変量生産体制での 独自のモノづくり。

モノづくりにおける生産指示や管理、品質管理・検証などを総括しています。常に変化が求められる昨今、独自技術を駆使したモノづくりと共に、変種変量生産体制などを実現しています。人の話をよく聞き、常に前向きな姿勢の人と一緒に仕事がしたいですね。

理事 RDM本部長
山谷 行彦さん

モノづくりが好きな 人には好環境の職場。

妥協しない開発・設計を基本に、自社ブランドや顧客への最適設計を生み出しています。本質的にモノづくりが好きな人であれば、弊社はこの上ない好環境。“驚きの後にある喜び”のあるモノづくりは、社会貢献と自己実現、そして必ず幸せな人生にもつながっていくと確信しています。



暖簾を守り、成長形で 次世代へつなぐことが使命。

いく。今はまさにそんなステージです。海外戦略も同様、我々が海外に触角を伸ばすことで、福井と世界を融合する担い手になりたいと思っています」
現在、繊維産業の量的生産拠点が中国中心である結果、県内繊維産地の規模も縮小を余儀なくされている。しかし「八木熊」はその中で、社内の繊維の定義を変えることで、近年ではこれまでに以上のビジネスモデルを構築している。「116年間、弊社が商売をさせてきただけというのは地元のおかげ。だから我々が海外でネットワークを広げて福井の素晴らしいものを世界へ展開することは、長年お世話になった産地への恩返しになると思っています」と、八木社長は志を熱く語る。

地域や社員を思う気持ちは、入社時から変わらないが、7年前に社長就任、難問に直面する毎にその想いは強く深くなっていくという。例えば直近では昨年、尊敬する先代が亡くなった時だ。「サブプライムローン問題やリーマンショック、ドバイショック、ギリシャショックなど、ここ数年は外部環境が激変し、難問も続きます。でも考えてみればこれまでの116年間、順風満帆の期間はむしろ短く、絶えず幾多の問題に先輩たちは直面し、一つひとつ乗り越えてきてくださったからこそ、今があるということに気がつきました。だから私たちも難問や問題に対しては一つひとつ丁寧に対処すべきだと、今、心を新たにしています。私が尊敬しているのは、わが社のトップであった父と、盛和塾の稲盛和夫氏です。その両名ともが原理原則(真理)、即ち、人間として正しいか、とい

うことをすべての判断基準におき経営をされています。真理・原理原則は普遍、常識(世の常)は変わる。固定観念にとらわれない企業が強い」という父の教えに習い、今後も社員とともに積極果敢に挑戦し続けていきたいと思えます。それは企業の発展こそが、社員とそのご家族、そして社会の成長と幸せにつながることを確信しているからです」
現在45歳の八木社長。社員のリーダーたちも若く、生き生きと仕事している様子を見るにつけ、今後さらに進化・成長していくはずだと確信する。「当社のホームページにも明記していますが、社員には希望することがいくつかあります。共に頑張り、真の商社×メーカーの融合体企業として、さまざまなビジネスモデルを追求したいですね」
常に挑戦し、成長を続ける「八木熊」は、老舗の新しい会社、という企業イメージを確立させていくに違いない。



株式会社 八木熊
福井市照手2-6-16 TEL.0776-22-3300
www.yagikuma.co.jp

会社概要

創業1896年。「100年、100名、100億(創業116年、スタッフ103名、売上106億)で、商社×メーカーの融合体企業をまい進します!」と八木社長。海外進出の成功例としては、数年前、FOREVER21との直取引開始があった。「地元であまり知られていないのは、弊社の口下手なところ(笑)」とも。



URALA
BUSINESS ENTERPRISE
NEWS